

学校だより



NO. 10



令和3年1月12日

校長より

地道に粘り強く取り組むことで発展につながる一年に

新年 あけましておめでとうございます。

今年が丑年です。コロナ禍の中で迎えた新年。いったいどんな年になるのだろうかと思い調べてみました。

「牛」といえば、牛乳や牛肉など身近にはあるようであり、現代では牧場や動物園など特別なところにはいかなないと出会えないものになっていますが、古くは食牛や乳牛のほか耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在でした。大変な農作業を手伝ってくれることから、丑年は「我慢」「発展の前触れ（芽が出る）」と言われたり、「丑」の文字が「芽が種子の内部で伸びきらない状態」を表し、子年にまいた種が芽を出して成長する時期とすることから、先を急がず目の前を確実に進めることが将来の成功につながると言われているといったようなことがわかりました。



本校で昨年、子年に種をまいたこと・・・といえば、一つはスクールキャラクターづくりの取組があげられます。100点以上もあった応募作品は、南山城支援学校と井手地区新設特別



支援学校の校区内の特徴や特産など地域のことを調べ、学校への思いや親しみを込めて作られたもので、それぞれ10点に絞るのに大変苦労したほどの力作ぞろいでした。今年も文字通りみんなで作ったみなみちゃん、やまぶーも一緒に地域との交流を進め、ともに学び合い、



育ち合える学校づくりへと発展させたいと思います。

また、3学期は1年間のまとめの学期で、卒業生にとっては4月の芽吹きの前大事な時期ですね。しっかり振り返り確実に発展につなげてほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、東京など1都3県に緊急事態宣言が出され、京都においても100人を超える新規感染者数が出る日がありという状況で、ワクチンができたとはいうものの感染予防策は決して気を抜くことなく続けていかねばなりません。いろいろな我慢も必要です。しかし、どこかに発展の兆し（芽が出る）があると信じて、1年間頑張っていきましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。